

あなたなら何ができますか？



お届けお昼ごはん

支



運転ボランティア

力



配食ボランティア

絆



雪おろしボランティア

結



地域の茶の間ボランティア

地域を支える大きな力
『ボランティア』

地域の中で大きな力、大きな存在となっているボランティア。現在、約100人の地域ボランティアの皆さんが活躍しています。村と村社会福祉協議会では、住み慣れた地域で安心して暮らせるために、住民がお互いに助け合い、自らが地域ボランティアとして参加する福祉の環境づくりを進めています。

知っていますか？

村にはこんなボランティアがあります

無償ボランティア

- ①福祉施設内でのボランティア
(お茶出し・話し相手・整髪・囲碁・将棋・踊り・歌・シーツ交換など)
- ②施設内外でのボランティア
(民謡・踊り・カラオケなど)
- ③施設などの花壇・畑の手入れ
- ④子どもたちの遊び相手・昔の遊び伝授
- ⑤「地域の茶の間」の手伝い
- ⑥通院のための運転ボランティア

有償ボランティア(ささえあい事業)

- ①お届けお昼ごはん
(月曜日から土曜日まで)
- ②雪下ろし
- ③玄関前の雪払い・道つけ
- ④ごみ出し
- ⑤片づけ
- ⑥電球交換
- ⑦買い物代行
- ⑧病院・薬局からの薬とり代行
- ⑨広報などの朗読(音訳)
- ⑩障がい者の居場所づくり



こんな活動
しています！

声の広報を届けたい…《音訳ボランティア》

視覚障がいのある方に「声の広報」を届けようと、平成24年にスタートした音訳ボランティアは現在6人の地域ボランティアが登録しています。



毎月、広報せきかわやお知らせ版が発行されるたびに集まり、聞く人の立場に立って、分かりやすいように写真やグラフなどの説明方法を確認。その後、音訳作業を行っています。

お知らせ版であれば1日かからない作業も、広報本紙となると丸2日もかかるほど大変な作業。音訳の作業は交代しながら原稿を読み上げ、数人で協力して行っています。完成した「声の広報」はCDとなって、郵便局の協力のもと村社会福祉協議会から郵送で利用者に届けられます。

◎音訳ボランティアを行っている大島京子さん（上野新※写真右）

「最初は読むだけと思っていましたが、研修を受けて奥が深いことを知りました。すごくやりがいがあります。相手の立場に立って表現するように心がけていますが、利用者の声を聞きながら、もっといいものを作っていきたいと思います」

◎『声の広報』を利用している佐藤賢二さん（下関）

「声の広報を毎月楽しみにしています。以前のカセットテープに比べCDは音が良い。ボランティアの皆さんはCDを聞く人たちのことを考え、すごく気を使ってくださっているんだと思います。地域の人たちが読んでくれるので、声を聞くだけで親しみがわきます。本当に感謝しています」

通院に困っている人の力になりたい…《通院のための運転ボランティア》



足腰が弱く公共交通機関の利用が難しい人や、車の運転ができない高齢者の通院を支援しようと、平成15年にスタートした通院のための運転ボランティアは、現在2人の地域ボランティアが登録しています。

活動の内容は、自宅から村内にある医療機関までの送迎で、村社会福祉協議会の軽ワゴンを使用し、月に2日程度の活動を行っています。現在、ボランティアの数に応じて支援を行っていますが、村のニーズに応えるためには、まだまだボランティアの数が不足している状況です。

今後、利用者も増えることが予想され、協力いただけ

るボランティアの確保が課題です。

（※通院のための運転ボランティアを利用するには、いくつか条件があります。具体的な内容については村社会福祉協議会 ☎64-0111へお問い合わせください）

◎運転ボランティアを行っている津野良明さん（下関）

「村では以前から一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が多かった。そして交通の便も良くはない。足が悪く、バスを利用できない高齢者も多くいたので、そんな人たちの力になりたいと思って始めました。運転ボランティアの登録は少ないので、自分の範囲内で出来る人がいれば、ぜひ協力してほしい」

◎運転ボランティアを利用している伊藤三平さん（南中）

「南中から下関までタクシーを使えば往復で5,000円ほどかかるので、送迎してもらって本当に助かっています。車を降りても危険な場所があれば見守ってくれるのでありがたい。とても親切で感謝しています」